

宇野重昭先生追悼シンポジウム ——それぞれの出会いが生み出す新たな可能性に向けて——

主催 成蹊大学宇野ゼミ同窓会

開催期日:2018年9月1日(土曜日) 13時30分~17時00分

開催場所:成蹊大学8号館101教室

(終了後、17時30分より10号館12階ホールにて懇親会)

【開催趣旨】

宇野重昭先生は、80歳を越えられ、時に体調の不良などに見舞われながらも生涯現役の言葉通り、研究活動にお力を注いでおられました。はからずも2017年4月1日逝去されました。本シンポジウムは、宇野先生のご指導を仰いだ宇野ゼミ同窓生が、先生を偲ぶとともに、先生との出会いを明日に向けて、さらに開いていきたいとの願いにより企画されました。

先生の思考軸には、長年にわたり深められてきた宇野先生独自の内発的発展論があります。本シンポジウムでは、「異質なものととの出会いにより、内在する可能性が独自な発展を遂げる」という宇野式内発的発展論の主旨に即して、それぞれの同窓生が宇野先生との出会いを、今後、より豊かなものに熟成、発展させていくことが、なにより宇野先生を追悼することになると考えております。

このような主旨に即して、本シンポジウムには、講演ゲストとして、宇野先生と中国フィールド活動を共にされたこともあり、親交を深めておられた中国研究のご専門家の毛里和子教授、宇野先生が生涯をかけて創成された『北東アジア学』の書評に感動、感激され繰り返し語っておられた国際関係論、日中関係論のご専門家である平野健一郎教授、そしてご子息であり、政治思想史、政治哲学のご専門家である宇野重規教授、3名の先生方をお招きし、宇野先生の学術世界について、それぞれのご専門からのご報告をお願い致しました。専門家による宇野先生の学術世界への考察という触発を受け、それぞれの同窓生が、教育者としての宇野先生との出会いにより得た知的世界、学術世界を、今後、自らの新たな思想、思考発展の契機にできれば幸いです。そしてそのことは、宇野ゼミ同窓会が単に思い出を語る同窓会ではなく、今を、そして明日を語る知的集団であって欲しいと願っておられた亡き宇野先生へのご供養になるものと信じております。本シンポジウムが宇野先生の学術と教育、お人なりを顕彰する一端となれば幸いです。

【プログラム】

*進行時間は目安となります。

開会

13:00~13:05

第一部講演 宇野重昭先生”アジアへのまなざし、アジアへからのまなざし”が見つめたもの

13:05~16:00

①「国際関係論とアジア地域研究—戦後日本における真の現実主義」平野健一郎教授

要旨：戦後の日本で国際関係論とアジア地域研究の教育研究にもっとも精力を注がれた宇野重昭先生、その先生が最後に「北東アジア研究」の旗を掲げられたのはなぜだったのでしょうか。戦後日本の「新生」のための学問として始まった「国際関係論」を同じ学科で学んだ後輩として、先生の学問的探究の跡を辿ってみたいと思います。国際政治学はリアリズム旺盛ですが、それとは違う「真の現実主義」を追い求める道があることを先生は示されたのです。

②「現代アジア学と中国学--宇野重昭先生を追悼する」毛里和子教授

要旨：宇野重昭先生は晩年、「北東アジア学の創成」を提唱されました。私も15年前に21世紀COEプログラム「現代アジア学の創生」を推進したことを思い出しました。とても苦労しました。その時の審査員の質問「ヨーロッパ学などないのに、なぜアジア学がなければならないのか」が私の中ではまだ解けません。宇野先生追悼に際して改めて考えてみたいと思います。

③「宇野重昭はE・H・カーをいかに読んだか」宇野重規教授

要旨：宇野重昭はその病床で、最後までE・H・カーの『歴史とは何か』（岩波新書）を原著とともに読み続けた。『歴史とは何か』は、カーが自らの歴史哲学を展開した著作である。なぜ国際政治学者であり、中国研究者である宇野は、この著作にその生涯の最後まで関心を持ちつづけたのか。宇野自身によって詳細に線の引かれた『歴史とは何か』の遺本を素材に、カーへの関心の所在を明らかにし、宇野の学問体系におけるカーの歴史哲学の意味を再検討してみたい。

休憩 (15分間)

質疑

16:15~16:25

第二部 パネルディスカッション 一宇野重昭先生の人と学術—
平野健一郎教授・毛里和子教授・宇野重規教授

16:25~16:55

閉会

17:00

【講演者紹介】

- ・ 平野健一郎 : 公益財団法人東洋文庫理事、東京大学名誉教授、早稲田大学名誉教授

1937年生まれ。東京大学教養学部卒業、東京大学大学院社会学研究科国際関係論専攻修士課程修了、ハーバード大学大学院歴史・東アジア専攻留学 (Ph.D)、上智大学外国語学部専任講師兼上智大学国際関係研究所所員、東京大学教養学部助教授、教授、早稲田大学政治経済学部教授、大学共同利用法人人間文化研究機構地域研究推進センター長、独立行政法人国立公文書館アジア歴史資料センター長、公益財団法人東洋文庫理事。



専門：国際関係論、国際文化論、満州国研究。

主要著作：『国際関係論』（共著、東京大学出版会、1982年）、ベンジャミン・I・シュウォルツ『中国の近代化と知識人—厳復と西洋—』（翻訳、東京大学出版会、1978年）、『アジアにおける国民統合—歴史・文化・国際関係—』（共著、東京大学出版会、1988年）、*The State and Cultural Transformation : Perspectives from East Asia*, editor, United Nations University Press, 1993年、『講座現代アジア4—地域システムと国際関係』（編著、東京大学出版会、1994年）、ジョン・K・フェアバンク『中国回想録』（共訳、みすず書房、1994年）、『国際文化論』（東京大学出版会、2000年）、『東アジア共同体の構築（3）国際移動と社会変容』（共編著、岩波書店、2007年）、『インタビュー戦後日本の中国研究』（共編、平凡社、2011年）、『国際文化関係史研究』（共編著、東京大学出版会、2013年）。

- ・ 毛里和子 : 早稲田大学名誉フェロー・名誉教授、中国・華東師範大学顧問教授

お茶の水女子大学卒業、東京都立大学人文科学研究科修了、財・日本国際問題研究所研究員、静岡県立大学国際関係学部教授、横浜市立大学国際文化学部教授を経て1999年から早稲田大学政治経済学術院教授。2010年3月定年退職。2013年10月～2014年12月、「新しい日中関係を考える研究者の会」代表幹事。



専門：現代中国論・東アジア国際関係論。

中国から「国際中国学研究貢献奨」（2010年度）、日本では「福岡アジア文化賞」（2010年度）、「石橋湛山賞」（2007年度）など受賞。2011年に文化功労者。

代表作：『日中漂流』（岩波新書、2017年）、『中国政治 習近平時代を読み解く』（山川出版社、2016年）、『現代中国政治第三版』（名古屋大学出版会、2012年）、『グローバル中国への道程—外交 150年』（川島真と共著、岩波書店、2009年）、『日中関係—戦後から新時代へ』（岩波新書、2006年）、『周縁からの中国 民族問題と国家』（東京大学出版会、1998年）など。

・宇野重規：東京大学社会科学研究所教授。

1967年東京生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。千葉大学法経学部助教授等をへて、現職に。

専門：政治思想史、政治哲学。

主要著作：『デモクラシーを生きる—トクヴィルにおける政治の再発見』（創文社、1998年）、『政治哲学—現代フランスとの対話』（東京大学出版会、2004年、渋沢クロード賞LVJ特別賞）、『トクヴィル 平等と不平等の理論家』（講談社選書メチエ、2007年、サントリー学芸賞）、『<私>時代のデモクラシー』（岩波新書、2010年）、『民主主義のつくり方』（筑摩選書、2014年）、『保守主義とは何か—反フランス革命から現代日本まで』（中公新書、2016年）、『政治哲学的考察—リベラルとソーシャルの間』（岩波書店、2016年）など。



■お問い合わせ、参加申し込みは以下へお願いいたします。

成蹊大学宇野ゼミナール同窓会 代表幹事 橋本淳一郎（1983年卒）

TEL：090-6344-7067

E-mail：jhashimoto0220@gmail.com